

サプライチェーン

サプライチェーンの定義

2-6

T&Dホールディングスではサプライチェーンを下表のように定義し、サプライチェーンを通じたサステナビリティ・CSRの浸透に努めています。

活動	サプライチェーン	
商品・サービスの提供	媒体	商品・サービスの提供で用いる媒体の製造
	代理店	代理店
業務の委託	ITシステム、コンサルティング、監査	
オフィスビル	ビル	オフィスビルの建設・維持・管理
	エネルギー使用	石油精製とその流通、電力事業者
	廃棄物	廃棄物処理業者
配送	配送業者	
従業員の移動	出張	航空機、鉄道・バス・タクシー、宿泊施設
	通勤	鉄道・バス
投資	投資先	

お取引先との関わり

414-1

●外部委託管理

T&D保険グループでは、業務の外部委託を行うに際し、経営の健全性の確保および事務管理態勢の強化のため、委託先の選定や委託事務等の監督方法を定め、適切な外部委託の管理態勢を整備しています。T&Dホールディングスでは、外部委託にあたっては「事務等の外部委託管理規程」に基づき、「事務等の外部委託リスク審査細則」において「外部委託チェックリスト」を定め、リスク管理上の審査、委託先の適格性審査（人権、労働条件、環境保護等の社会性の項目*を含む）を行います。

* 社会性の項目：人権上の問題が生じていないか、強制労働・長時間労働・健康安全確保等の労働条件の問題が生じていないか、環境汚染や気候変動への適切な配慮が行われているか等。

外部委託開始後は、原則、年1回以上委託先への点検を実施し、委託事務等の履行状況等をモニタリングし、その都度、必要に応じて改善指導を行っています。

●グリーン購入・調達の実践

当グループでは「T&D保険グループサステナビリティ憲章」および「T&D保険グループ環境方針」に基づき、地球環境の保護活動に取り組んでいます。その一環として業務に必要な物品やサービスの調達・購入にあたっては、グループ共通のグリーン購入基準を定め、より環境負荷の少ないものから優先的に調達・購入するグリーン購入およびグリーン調達に取り組んでいます。グリーン購入は主に什器・備品、消耗品を対象とし、グリーン調達は商品パンフレット・約款等の印刷、不動産設備、システム機器等の調達を対象とし、それぞれの実績は半期ごとにグループサステナビリティ推進委員会および取締役会に報告しています。

●パートナーシップ構築宣言

T&Dホールディングス、太陽生命、大同生命およびT&Dフィナンシャル生命は、日本経済団体連合会会長、日本商工会議所会頭、日本労働組合総連合会会長および関係大臣（内閣府、経済産業省、厚生労働省、農林水産省、国土交通省）をメンバーとする「未来を拓くパートナーシップ構築推進会議」によって創設された「パートナーシップ構築宣言」の趣旨に賛同し、これを公表しています。

T&D保険グループが賛同し支持する原則

国連グローバル・コンパクト

T&D保険グループは、国連が提唱する持続可能な成長を実現するための国連と企業の協力の枠組みである「国連グローバル・コンパクト (United Nations Global Compact. 以下、UNGC)」に参加しています。

UNGCは、「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」の4分野にわたる10の原則を掲げ、企業に責任ある行動を促すものです。当グループはUNGCの理念に賛同し、T&Dホールディングスがグループを代表して同原則への支持を表明する書簡に署名しています。



UNGCの10原則

人権	原則 1	企業は、国際的に宣言されている人権の保護を支持、尊重すべきである
	原則 2	企業は、自らが人権侵害に加担しないよう確保すべきである
労働	原則 3	企業は、結社の自由と団体交渉の実効的な承認を支持すべきである
	原則 4	企業は、あらゆる形態の強制労働の撤廃を支持すべきである
	原則 5	企業は、児童労働の実効的な廃止を支持すべきである
	原則 6	企業は、雇用と職業における差別の撤廃を支持すべきである
環境	原則 7	企業は、環境上の課題に対する予防原則的アプローチを支持すべきである
	原則 8	企業は、環境に関するより大きな責任を率先して引き受けるべきである
	原則 9	企業は、環境に優しい技術の開発と普及を奨励すべきである
腐敗防止	原則10	企業は、強要や贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取り組むべきである

責任投資原則 (PRI)

T&D保険グループでは、太陽生命、大同生命およびT&Dアセットマネジメントが、機関投資家などに対してESG [環境 (Environment)・社会 (Social)・企業統治 (Governance)] を考慮した投資行動を促す行動規範である「責任投資原則 (PRI) *」に賛同し署名をしています。

Signatory of:



* 責任投資原則 (PRI): 正式名称を「United Nations Principles for Responsible Investment」といい、国連環境計画・金融イニシアティブおよび国連グローバル・コンパクトが事務局となり策定された、機関投資家の意思決定プロセスにESGの視点を反映させるための考え方を示した原則。

●責任投資原則の6原則 (宣言)

1. 私たちは、投資分析と意思決定のプロセスにESGの課題を組み込みます。
2. 私たちは、活動的な(株式)所有者になり、(株式の)所有方針と(株式の)所有慣習にESGの課題を組み入れます。
3. 私たちは、投資対象の主体に対してESGの課題について適切な開示を求めます。
4. 私たちは、資産運用業界において本原則が受け入れられ、実行に移されるように働きかけを行います。
5. 私たちは、本原則を実行する際の効果を高めるために、協働します。
6. 私たちは、本原則の実行に関する活動状況や進捗状況に関して報告します。

●Spring*

T&D保険グループでは、太陽生命、大同生命およびT&Dアセットマネジメントが、生物多様性に関する課題をテーマとした協働エンゲージメント・イニシアティブである「Spring」に参画しています。



* Spring: 投資家による協働エンゲージメントを後押しすることで、2030年までに生物多様性の損失を食い止め、回復させるというグローバル目標に貢献することを目指し、責任投資原則 (PRI) が設立。

●Advance*

T&D保険グループでは、太陽生命、大同生命およびT&Dアセットマネジメントが、社会課題・人権に関する協働エンゲージメントを行う国際イニシアティブ「Advance」に参画しています。



* Advance: 幅広い社会問題を網羅するプラットフォームとして機能し、投資家のステewardシップ活動を通じて、人権とポジティブなアウトカムを促進することを目指し、責任投資原則 (PRI) が設立。

インパクト志向金融宣言

T&D保険グループでは、太陽生命および大同生命が、インパクト志向を有する国内金融機関の協働イニシアティブである「インパクト志向金融宣言*」に署名しています。

インパクト志向金融宣言

Japan Impact-driven Financing Initiative

* インパクト志向金融宣言: 環境・社会課題を自律的に解決できる持続的な資金循環を生み出すため、投融資資金の流れをインパクト志向へと変革させることを目指すイニシアティブであり、国内金融機関が協働インパクト測定・マネジメントの推進に取り組んでいます。

T&D保険グループが賛同し支持する原則

持続可能な社会の形成に向けた金融行動原則 (21世紀金融行動原則)

T&Dホールディングスおよび太陽生命、大同生命、T&Dフィナンシャル生命、T&Dアセットマネジメント、ペット&ファミリー損害保険は、金融機関の自主的な行動原則である「持続可能な社会の形成に向けた金融行動原則 (21世紀金融行動原則) *」に賛同し、署名しています。

* 持続可能な社会の形成に向けた金融行動原則 (21世紀金融行動原則)：環境省が事務局機能を担い、幅広い金融機関で構成される「環境金融行動原則起草委員会」により、持続可能な社会形成のために必要な責任と役割を果たしたいと考える金融機関の行動指針として策定されました。



●21世紀金融行動原則

原則1 基本姿勢

持続可能な社会の形成のために、私たち金融機関自らが果たす責任と役割を認識の上、環境・社会・経済へのポジティブインパクトの創出や、ネガティブインパクトの緩和を目指し、それぞれの事業を通じて最善の取組みを率先して実践する。

原則2 持続可能なグローバル社会への貢献

社会の着実で公正なトランジションに向けて、イノベーションを通じた産業や事業の創出・発展に資する金融商品やサービスを開発・提供し、持続可能なグローバル社会の形成をリードする。

原則3 持続可能な地域社会形成への貢献

地域特性を踏まえた環境・社会・経済における課題解決をサポートし、地域の包摂性とレジリエンスの向上を通じて、持続可能な地域社会の形成をリードする。

原則4 人材育成

金融機関における人的資本の重要性を認識し、環境や社会の問題に対して自ら考え、行動を起こすことのできる人材の育成を行う。

原則5 多様なステークホルダーとの連携

持続可能な社会の形成には、私たち金融機関をはじめ、多様なステークホルダーが連携することが重要と認識し、かかる取組みに参画するだけでなく主体的な役割を担う。

原則6 持続可能なサプライチェーン構築

気候変動・生物多様性等の環境問題や人権をはじめとする社会課題に積極的に取り組むとともに、投資先を含む取引先等との建設的なエンゲージメントを通じて、持続可能なサプライチェーンの構築を図る。

原則7 情報開示

社会の持続可能性を高める活動が経営的な課題であると認識し、国内外の動向と開示フレームワークを踏まえ、取組みを広くステークホルダーに情報開示するとともに不断の改善を行う。

気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD)

T&D保険グループは「気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD) *」の提言に賛同を表明するとともに、わかりやすい気候関連財務情報の開示に積極的に取り組んでいます。



* 気候関連財務情報開示タスクフォース (TCFD: Task Force on Climate-related Financial Disclosures) : 2015年12月に金融安定理事会 (FSB: Financial Stability Board) により設置されたタスクフォース。気候変動がもたらすリスクと機会について明確で比較可能、かつ一貫した情報開示のための提言を策定し、2017年6月に公表。

RE100

事業活動で使用する電力を100%再生可能エネルギーで調達することを指す国際的なイニシアティブ「RE100*」に加盟しています。T&D保険グループは脱炭素社会の実現に向けて、2040年度までにCO2



排出量をネットゼロとする目標を掲げております。この目標の実現のため、「2030年度までに使用電力の60%を再生可能エネルギー由来とする」ことを中間目標として設定し、当グループが使用する電力の再生可能エネルギーへの切替を積極的に進めています。

* RE100 (Renewable Energy 100%) : 事業で使用する電力を再生可能エネルギー100%とすることを旨とする企業で構成されるイニシアティブ。当イニシアティブは、国際的な環境NGO「The Climate Group」とCDPIによって運営されています。

Climate Action 100+

太陽生命、大同生命、およびT&Dアセットマネジメントは、温室効果ガス排出量の多い企業に対し、協働したエンゲージメントを通じて、気候変動への対応を求める国際的な投資家イニシアティブである「Climate Action 100+」に参画しています。



自然関連財務情報開示タスクフォース (TNFD)

T&D保険グループは「自然関連財務情報開示タスクフォース (TNFD) *」のフレームワークに即した対応を進めており、2024年9月に「TNFD Adopter」に登録しました。



* 自然関連財務情報開示タスクフォース (TNFD: Taskforce on Nature-related Financial Disclosures) : 企業や金融機関が自然資本や生物多様性に関するリスクや機会を評価・開示するための枠組みを構築する国際的なイニシアティブ。2021年6月に発足し、2023年9月に最終提言を公表。

外部よりいただいた評価

ESGインデックスへの組み入れ

●ESG評価機関からの評価

当グループは、サステナビリティ・ESG課題の取組みについて、わかりやすく透明性のある情報開示に努めています。国内外のESG評価機関、インデックス構築会社から高い評価を受けており、主要なESGインデックスの構成銘柄に採用されています。

国際株式インデックス



FTSE4Good

FTSE4Good Index Seriesは、英ロンドン証券取引所グループの100%子会社であるFTSEインターナショナルが、2001年から公表している国際的に信頼される主要なESG投資インデックスです。当グループは、2009年から構成銘柄に採用されています。



MSCI Selection Indexes
2025

MSCI Selection Indexesは、ニューヨークに本拠を置く金融サービス会社が構築、算出するESG面で優れた企業によって構成される国際株価指数です。当グループは2023年構成銘柄に採用されています。

* 2025年2月にMSCI ESG Leaders IndexesはMSCI Selection Indexesに名称が変更されました。

MSCI Selection Indexes logo disclaimer: THE INCLUSION OF T&D Holdings, IN ANY MSCI INDEX, AND THE USE OF MSCI LOGOS, TRADEMARKS, SERVICE MARKS OR INDEX NAMES HEREIN, DO NOT CONSTITUTE A SPONSORSHIP, ENDORSEMENT OR PROMOTION OF T&D Holdings, Inc. BY MSCI OR ANY OF ITS AFFILIATES. THE MSCI INDEXES ARE THE EXCLUSIVE PROPERTY OF MSCI. MSCI AND THE MSCI INDEX NAMES AND LOGOS ARE TRADEMARKS OR SERVICE MARKS OF MSCI OR ITS AFFILIATES

国内株式インデックス



FTSE Blossom
Japan Index

FTSE社が、2017年に新規に開発した、環境、社会、ガバナンス(ESG)について優れた対応を行っている日本企業を選別して構成するインデックスです。当グループは開発当初から構成銘柄に採用されています。



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index

FTSE社が、2022年に新規に開発した、各セクターにおいて相対的に、環境、社会、ガバナンス(ESG)について優れた対応を行っている日本企業を選別して構成するインデックスです。当グループは開発当初から構成銘柄に採用されています。

2025 CONSTITUENT MSCIジャパン ESGセレクト・リーダーズ指数

MSCI社が、2017年に新規に開発した、環境、社会、企業統治(ESG)格付けが相対的に高い銘柄を選別して構成するインデックスです。当グループは開発当初から構成銘柄に採用されています。

2025 CONSTITUENT MSCI日本株 女性活躍指数(WIN)

MSCI社が、2017年に新規に開発した、各業種の中で性別多様性に優れた銘柄を選別して構成するインデックスです。当グループは開発当初から構成銘柄に採用されています。

2025年7月1日現在

主な受賞・表彰

当グループのサステナビリティ・ESG課題の取組みが社会から評価されさまざまな受賞・表彰を受けています。

2024年度

- 経済産業省／「健康経営優良法人ホワイト500」認定
- work with Pride／「PRIDE指標2024」Gold受賞
- 総務省／「テレワークトッパー2024」受賞
- HDI-Japan/HDI 五つ星認証プログラム コールセンターが「五つ星認証」を取得
- HDI-Japan/HDI 格付けベンチマーク「クオリティ格付け」電話対応窓口(お客さま、代理店)最高評価「三つ星」獲得
- 一般社団法人ユニバーサルコミュニケーションデザイン協会／「UCDAアワード2024」[総合賞(シルバー)]を受賞

大同生命

大同生命が大阪府内に保有する不動産の温室効果ガス削減状況が評価され、大阪府が気候変動の緩和対策等に関して、模範となる取組みを行った事業者等を表彰する「令和6年度 おおさか気候変動対策賞」において特別賞を受賞しました。

社会活動 413-1

基本的な考え方

T&D保険グループは、社会性、公共性が高い生命保険業を営むグループとして、社会活動や環境の保護に取り組んでいます。また、従業員の自主的な社会への取組支援のほか、財団を通じた取組みも行っています。保険グループとして社会とともに持続的に成長を遂げ、公共的使命と社会的責任を果たしていくことを目指し、主に「健康と福祉の向上」、「健全な社会の発展」、「社員参加型の社会貢献活動の推進」などの分野・方法で活動に取り組んでいます。

主な活動領域

- 健康と福祉の向上: 障がい者福祉に取り組む団体・イベントを支援しています。また財団法人を設立し、障がい者福祉・高齢者福祉に関する事業・研究等を助成しています。
- 健全な社会の発展: ソーシャルビジネス起業、文化(スポーツ)・科学・芸術の発展、金融知識の普及に取り組む団体・イベントを支援しています。また財団法人を設立し、諸外国との文化交流や助成活動を通じて、国際相互理解促進に取り組んでいます。
- 社員参加型の社会貢献活動の推進: 社員サークル・友の会を設立し、医療・教育・環境保全・障がい者福祉分野等の社会貢献に取り組んでいます。また、社員参加型のイベント・寄付等により地域医療・環境衛生の改善、被災地支援等に取り組んでいます。

健康と福祉の向上(障がい者福祉・高齢者福祉 他)

3-3

● 外部団体への支援

公益財団法人日本ダウン症協会への支援 太陽生命

太陽生命は、2006年から公益財団法人日本ダウン症協会の賛助会員として活動を支援しています。

日本ダウン症会議・世界ダウン症の日キックオフイベントへの寄付、ダウン症支援セミナーの会議室の提供のほか、太陽生命が栃木県那須塩原市に設置している「太陽生命のもり森林」で実施する「森林教室」に同協会栃木支部所属のご家族をお招きして、野点・ヨガ体操など社員の手づくりイベントを楽しんでいただくなど、さまざまな交流を通じて活動を支援しています。



* 「森林教室」は、2024年11月に「障害者の生涯学習支援活動」に係る文部科学大臣表彰を受賞しました。

障がい者スポーツの支援 大同生命

大同生命は、創業90周年を迎えた1992年の第1回「全国知的障害者スポーツ大会(ゆうあいピック)*」以来、毎年、「全国障害者スポーツ大会」に特別協賛しています。

* 「全国知的障害者スポーツ大会」は、2001年に「全国身体障害者スポーツ大会」と統合され「全国障害者スポーツ大会」となりました。

障がいのある選手がスポーツを楽しみながら活躍する姿を通じて、障がいへの理解を広げ、社会参加を支援しています。大会では、参加選手などとの交流の場である「おもてなし広場」に障がい者スポーツ体験や無料ゲーム等で楽しめる専用ブースを設置し、大同生命をはじめ、太陽生命や提携団体などの役職員がボランティアとして活動しています。2024年は、佐賀県で第23回全国障害者スポーツ大会「SAGA2024全障スポ」が開催されました。



また、2015年1月から公益財団法人日本パラスポーツ協会のオフィシャルパートナーとして、障がい者スポーツのより一層の普及・発展に向けた取組みを行っています。

「日本ろう者サッカー協会」とオフィシャルパートナー協定を締結 T&Dフィナンシャル生命

T&Dフィナンシャル生命は、2018年6月より一般社団法人日本ろう者サッカー協会とオフィシャルパートナー協定を締結しています。同協会のオフィシャルパートナーとして、ろう者サッカー・フットサル活動のサポートや障がい者スポーツの振興を通じて、ろう者サッカー・フットサルの発展と普及に貢献していきます。



● 財団法人による活動

公益財団法人太陽生命厚生財団

設立の目的等

太陽生命の創業90周年を記念して1984年に「ひまわり厚生財団」として設立され、2009年12月に「公益財団法人 太陽生命厚生財団」に移行しました。「高齢者や障がい者の福祉向上や文化活動を目的とした事業への助成」ならびに「高齢者福祉に関する調査研究への助成」を行い、「わが国の社会福祉の向上に寄与する」ことを目的としています。

主な事業

社会福祉助成

- 事業助成: 在宅高齢者、在宅障がい者等の福祉向上や文化活動の支援事業、およびこれらに関連して、支援を必要としながら日頃行政や医療の狭間で見落とされがちな公的サービスでカバーされにくい各種活動の支援事業への助成。
- 調査研究助成: 高齢者保健・医療、生活習慣病または高齢者福祉に関する調査・研究への助成。

【1984年度(設立)～2024年度の助成実績累計】2,565件 13億9,576万円

社会活動

2024年度の主な事業

2024年度は、従来どおり、財団設立の趣旨・目的である社会福祉の向上に寄与するために、生活福祉分野で地域に根ざし地道な活動を行っている特定非営利活動法人（NPO）等が実施する在宅高齢者または在宅障がい者の福祉に関する事業への助成を継続して実施するとともに、高齢者福祉などに関する調査・研究への助成を実施しました。当年度の助成実績は、事業助成が66件 1,925万円、調査研究助成が6件 289万円、合計72件 2,214万円となりました。また、助成を行った団体の活動状況などを、財団のホームページで『財団レポート』として紹介しています。



「財団レポート」より～学生ボランティアと地域の高齢者の皆さんとのサロン活動の様子（岩手県陸前高田市）

公益財団法人大同生命厚生事業団

設立の目的等

大同生命が1974年に設立。生活環境の悪化による健康被害や高齢者人口の急増に伴う諸問題に関する研究への助成などを通じた「国民の健康と社会福祉の増進」を目的としています。

主な事業

地域保健福祉研究助成・ボランティア活動助成

- 地域保健福祉研究助成：地域に密着した公衆衛生活動や福祉活動に従事している方々の、「地域における保健・医療・福祉に関する研究」に助成しています。
- シニアボランティア活動助成：年齢60歳以上の方々がグループで行っている「高齢者・障がい者の福祉や子どもの健全な心を育てる交流のボランティア活動」に助成しています。
- ビジネスパーソンボランティア活動助成：会社などに勤務している方々のグループが、休日などを利用して行っている「高齢者・障がい者の福祉や子どもの健全な心を育てる交流のボランティア活動」に助成しています。



【1974年度（設立）～2024年度の助成実績累計】4,828件 17億6,757万円

健康小冊子の発行

人々の関心が高い環境や健康、福祉の問題について、専門家が執筆した小冊子「環境と健康シリーズ」をこれまでに計77冊発行しています。また、より多くの方々にお読みいただけるよう、近年発行した小冊子を電子書籍化のうえ、財団のホームページで無料公開しています。

家庭看護の相談と実習教室

これまでに実施した実習教室の様子などを記録したDVDの無料貸出しを行っています。

健全な社会の発展

3-3

●文化（スポーツ）・科学・芸術の発展

経済的理由で修学困難な学生への就学支援（基金*の設立）

T&Dホールディングスは、2024年12月に「T&D保険グループ学生応援基金～Try & Discoverな人生に。～」を設立しました。



本基金では、病気・事故等で保護者を失っ

た学生が安心して大学生生活に集中できるように在学期間（最長4年間）を通じ、毎年奨学金を支給いたします。学生の経済的負担を軽減することで、夢への「Try & Discover」を後押ししてまいります。

* 本基金は、公益財団法人日本フィナンソロピック財団が設定・運営しています。

全国中学生ラグビーフットボール大会への特別協賛 太陽生命

太陽生命は、公益財団法人日本ラグビーフットボール協会（以下、日本協会）が主催する「全国中学生ラグビーフットボール大会（太陽生命カップ）」に、2011年度より特別協賛しています。



ラグビーの基本精神である「One for All, All for One」は、生命保険の基本理念である「一人は万人のために、万人は一人のために」と共通するものです。また、日本協会が掲げる大会目的である「チームと競技者数の増加ならびに競技力の向上に寄与し、中学生が健全な社会を形成する者として必要な資質を得られるよう働きかけること」に賛同し、日本協会とともに中学生ラグビーの日本国内における振興と発展、および青少年の健全な育成に取り組んでいます。

社会活動

国内バレーボールトップリーグを応援 大同生命

大同生命は、2024年より国内バレーボールトップリーグ「大同生命SV.LEAGUE」のタイトルパートナーを務めています。同リーグと「地域共生・社会連携」「ウェルビーイング」「コミュニティ創出」などの価値観を共有する大同生命は、スポーツが持つ「人を元気にする力」を通じて、バレーボールを起点とした地域活性化に取り組んでいます。



SVSP-2024-266

競技のさらなる普及をサポートするとともに、支社と各クラブが連携した地域活性化のための社会貢献活動や、健康経営の普及推進に向けたウォーキングキャンペーンなど、多岐にわたる活動を行っています。

課外授業の実施 ペット&ファミリー損害保険

ペット&ファミリー損害保険では、人とペットの豊かで平和な暮らしを実現するという目標に向け、東京都台東区教育委員会の「学びのキャンパスプランニング」事業に参画し、小中学校および保育園・幼稚園で課外授業を行っています。「ペットと人の共生」を共通テーマに、子供たちの年齢に応じて、「ペットと人の幸せな暮らし」「犬や猫の気持ちを理解する」「犬や猫のからだの仕組みや病気・医療を学ぶ」などの授業プランを提供しています。



●金融知識の普及

「金融教育イベント」への協賛 太陽生命

太陽生命では、青少年の経済的自立を支援するため、金融知識の普及を目的に読売新聞社主催の「未来のマネーフエス」に協賛しています。本イベントを通じて、お金や経済の仕組みを学ぶ機会を提供し、金融リテラシーの向上に努めています。



「FDSF Impact Conference 2025 (サステナブルな未来創造を目指して)」への協賛

当グループは、一般社団法人科学と金融による未来創造イニシアティブ (FDSF) の活動に賛同し、FDSFが主催する「サステナブルファイナンスによる経済的価値と社会的価値の創出にシームレスに取組み、社会のアップデートに貢献する」ための関係者が出会い、相互理解を深める場づくりを目指す、「FDSF Impact Conference 2025」に協賛しています。



インターンシップ 大同生命

大同生命では、従来より生命保険業務や中小企業に必要なリスク対策への理解を深めていただくことを目的として、学生のみなさま向けのインターンシップを実施しています。2024年度も、対面・非対面を併用して全国から多くの方に参加いただきました。営業活動から本社業務までさまざまな仕事を体感いただくとともに、これまで以上に多くの従業員とのコミュニケーション機会を設けました。生命保険会社や大同生命の特徴について触れていただくことで、学生のみなさまが自ら働くイメージを掴み、ご自身の適性や今後の進路を考える機会として活用いただいています。



社会活動

●財団法人による活動

■公益財団法人大同生命国際文化基金

設立の目的等

大同生命が1985年に設立。諸外国との文化交流や助成活動を通じて、国際相互理解の促進を図り、わが国の国際化に貢献することを目的としています。

主な事業

大同生命地域研究賞の贈呈

世界各地域に関する学術的研究の奨励を目的に、地域研究の分野で功績のあった研究者に対し「大同生命地域研究賞」「大同生命地域研究奨励賞」を贈呈しています。また、国際相互理解を深めるうえで功労のあった方に対しては、「大同生命地域研究特別賞」を贈呈しています。

翻訳・出版事業

日本において、アジア諸国の歴史・文化・習慣への理解を深めていただくことを目的として、アジア諸国(14カ国)の現代文芸作品(82作品)を翻訳・出版し、国内の大学・公共図書館に寄贈しています。

なお、2012年度からは、これらの作品をより多くの方々にお読みいただけるよう、電子書籍化のうえ、財団のホームページで無料公開しています。また、アジア諸国において、日本に対する理解を深めていただくことを目的として、日本の文学作品などを各国の言語に翻訳した作品(51作品)を9カ国で出版し、現地の大学や図書館などに寄贈しています。

教育支援事業

東南アジア諸国において、学校建設(5カ国、20校)や図書・学用品の寄贈による学習環境の整備を通じて、各地域の教育意識の向上を支援しています。なお、長年にわたる教育分野への貢献が認められ、2013年にラオス人民民主共和国から「労働勲章第三等」が授与されました。



社員参加型の社会貢献活動の推進

●社員サークル・友の会による活動

■太陽生命グッドウィル・サークル友の会

2005年12月設立の「太陽生命グッドウィル・サークル友の会(以下、友の会)」は、太陽生命および関連会社の役職員等で構成され、2025年3月31日時点での会員数は8,704名です。会員は社会貢献活動支援のため、毎月の報酬・給与の手取金額の100円未満の端数、または100円を1口とした任意の金額(1口以上10口まで)を拠出しています。現在「友の会」は主に全国の支社や本社部署が主体的に行う地域密着型の社会貢献活動や、NPOなどと連携した環境保全活動、教育支援活動に対する支援を行っています。活動内容は太陽生命の社内報などに掲載し、役職員に活動への参加を広く呼びかけています。

2024年度の主な活動

- 太陽生命の森林での環境保全活動、CD/DVD・古本、ランドセル、靴などの収集・寄贈。

■大同生命社会貢献の会

創業90周年を迎えた1992年に、役職員による自主的な活動組織として「大同生命社会貢献の会」が設立され、会員の募金活動やボランティア活動を推進・支援しています。また、1994年からは、役職員による「障がい者一日外出支援ボランティア活動」を実施しています。車いすや歩行介助など、障がいのある方々との直接のふれあいを通じ、役職員が障がいに対する理解を深めています。

2024年度の主な活動

- 募金・寄付活動：役職員から寄せられた募金やチャリティー・カレンダー展での収益金をもとに、障がい者施設や障がい者支援団体に寄付を行いました。
- その他：全国の支社等から集まった使用済み切手などを、社会貢献活動を支援する団体に寄贈し、海外の医療協力にお役立ていただきました。



社会活動

●社員参加型のイベント・寄付等の活動

■全国一斉グリーンキャンペーン 太陽生命

太陽生命は、地域社会に対する貢献活動として全国で清掃活動に取り組んでいます。1982年に「小さな親切運動」からスタートした本取組みは、2004年からは「全国一斉グリーンキャンペーン」として、北は北海道から南は沖縄まで、全国の支社に活動の輪を広げてきました。日ごろお世話になっている地域への感謝の気持ちを込めて清掃活動を行い、社員が一丸となって社会貢献活動に取り組んでいます。



■みんなでサステナ運動 大同生命

2017年度より、地域・社会への貢献活動の一環として、全社をあげて「みんなでサステナ運動」に取り組んでいます。2024年度は「地域社会への貢献」をテーマに、リサイクルの推進や清掃活動などに取り組み、SVリーグ選手にもご協力いただきました。(写真は大同生命職員と清掃活動に協力いただいた「PFUブルーキャッツ石川かほく」の選手)



SVSP-2024-266

■ウォーキングキャンペーンを通じた社会貢献活動 大同生命

中小企業の健康経営実践支援ツール「KENCO SUPPORT PROGRAM」の利用者を対象としたウォーキングキャンペーンと連動し、参加者の歩数に応じた寄付を実施しています。2024年度は、「認定NPO 法人 全国子ども食堂支援センター・むすびえ」への寄付を実施しました。(画像提供:認定NPO法人全国子ども食堂支援センター・むすびえ)



■ごみ拾いSNS「ピリカ」を活用した清掃活動

T&D 保険グループでは、社会課題解決に向けた取組みの一環として清掃活動を推進しています。2023年7月からは、ピリカ社のごみ拾いSNS「ピリカ」を利用し、ごみ拾い活動の活性化、定量化を図っています。2024年度は、T&Dホールディングス設立20周年施策として「T&Dクリーンプロジェクト」と称し、荒川河川敷にてクリーンアップイベントを開催しました。



■献血活動

T&D 保険グループは、東京都赤十字血液センターに協力し、夏季と冬季の年2回、東京日本橋タワーにて献血活動を行っています。グループ共同で各社の役職員に協力を呼びかけ、2024年度は、延べ269名が献血に参加しました。



■被災地への支援

大規模災害などの発生にあたっては、T&D 保険グループまたはグループ各社において義援金の寄付や復旧作業の協力などの支援を行っています。

東日本大震災においては、震災発生直後よりグループの役職員を被災地へ派遣し、瓦礫撤去や支援物資の搬入などの活動を行ったほか、個人宅や寺院の復旧作業の協力などの支援活動を行いました。その後も令和6年能登半島地震の被災地への義援金の寄贈など、幅広い支援活動を継続しています。

■被災地応援マルシェ (物産展)

太陽生命では東日本大震災以降、宮城県石巻市および福島県に対して、物産展などを通じた支援活動を継続しています。2024年度には能登半島地震で被災された能登地域も加えた被災地応援マルシェ(物産展)を開催しました。物産展にはT&D 保険グループ各社の役職員も来場され、グループ全体で一体となって取り組む姿勢がグループ一体経営にもつながっています。

